

Q. 14 発達の段階に応じたノート指導をするためには、どのようなことに気を付ければよいのでしょうか。

A. ノート指導においては、ノートに書いたりまとめたりする技能を教えた分だけその技能は子どもたちに身に付くと言えます。そして、発達の段階に応じたノート指導を行うことによって、学習意欲や学習内容の理解につながっていきます。



○小学校低学年のノート指導

この時期は、文字を書くこと自体が学習となります。したがって、練習的な使い方が中心となるでしょう。時間を十分にとって、文字や記号の書き方を指導しながら、丁寧に書かせることが大切です。

○小学校中学年のノート指導

学習活動に少しずつノートを生かしていくようにします。考えたことや感じたこと、わかったことやわからないことなどを書きとめさせ、それぞれの項目別に分けて書かせるなどの工夫をさせるようにします。

○小学校高学年のノート指導

ノートに書く内容や書き方に、個性が出てくる段階です。予習や復習を含めて自分の思考の流れが見えるようなノート作りができるようにしたいものです。また、人の話を聞きながら、あるいは、調べながら書くことができるような指導の工夫が必要です。また、色を分けて絵や図などを書いたり、復習しやすいノートを作らせたりすることも、この時期には習得させておきたいものです。

○中学校～高等学校のノート指導

この時期の子どもたちの傾向として、教師の書く板書のみを機械的に写し取って、テストの前にそれを見て暗記するということがあります。小学校の頃からの継続的なノート指導が必要ではありますが、情報の収集や処理の仕方を培う基礎になったり、学習意欲や理解につながるためのノートになったりする指導を改めて確認しておく必要があります。

教師からの励ましや支援を基盤として次のことにも留意しましょう！

◇学習の足跡がふりかえられるノートに

復習のために役立てられるような欄をページの中に作りましょう。学習を進めていく過程で、前時の学習内容を振り返る時には、自分の考えが整理されたノートが大きな効果を上げることは言うまでもありません。

◇学習内容を定着させるためのノートに

練習を積み重ねることによって、知識の定着や学習内容の理解につながります。たとえ練習であっても、ノートに丁寧に書く習慣を身に付けさせましょう。

◇自分の考えをまとめるノートに

いろいろな事実や資料を通して、考えたことや知ったことを自分の言葉で書かせたり、イメージしたことを図や表に表現させたりするようにしましょう。ただ記録するだけでなく、書くことで、さらに新たな考えを生み出すという視点にも留意したいものです。